

その他の成果の活用事例

1 道路橋鋼製橋脚隅角部の疲労設計・解析手法の提案

道路橋の鋼製橋脚隅角部では、既設橋に多数のきれつ損傷が発見され、新設橋の疲労設計にあたって複雑に部材が配置される隅角部に対しても設計で応力性状を一定水準以上の精度で効率的に算出し、所要の疲労耐久性のあることを定量的に照査できる手法の確立が緊急の課題となっていた。そのため国総研では、一定せん断流パネル要素を用いた格子解析手法の隅角部への適用性を検証し、疲労設計用の解析手法として提案した。成果は国総研資料としてとりまとめ、現場で実設計に活用されている。

道路研究部道路構造物管理研究室長 玉越 隆史

2 「港湾工事施工手引書」の作成

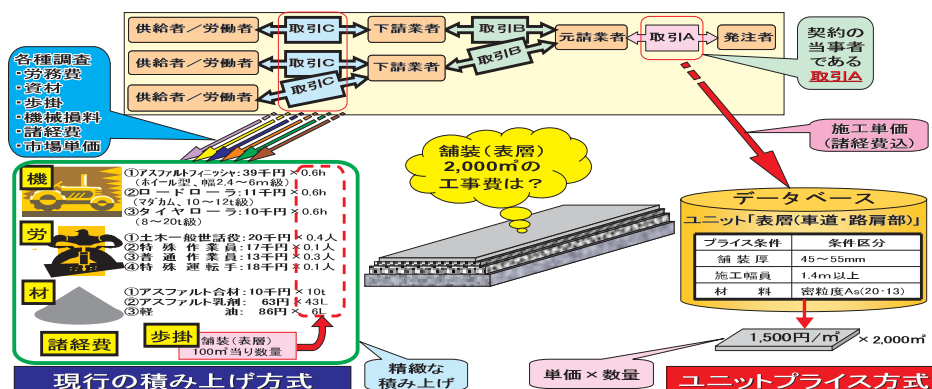
請負工事の施工状況について、どのような点に留意して監督するかのノウハウは、自らの経験や上司からの指導を通じて身に付けてきた。しかし、近年の公共事業の縮小や定員の削減などから、監督業務に携わる者も少なくなり、このままでは監督上のノウハウの引き継ぎが途絶えてしまうことが懸念される。このため、国総研では、監督技術の維持・向上を目的に港湾工事の代表的な工種を対象とし、これまでに蓄積されてきた監督上の留意点を整理して、港湾工事施工手引書を2007年3月に作成した。本手引書は、国土交通省港湾局より地方整備局等に配付され工事の監督をする際の業務資料として活用されている。

港湾研究部港湾施工システム課長 東海林 恭一

3 ユニットプライス型積算基準の改訂

ユニットプライス型積算方式は、「積み上げ方式」から歩掛を用いない「施工単価方式」への積算体系の転換に向けた取り組みであり、2004年12月より直轄工事の一部で試行が開始されている。国総研は、試行工事のフォローアップや価格のデータ分析を行い、2006年には、ユニットプライス型積算基準及びユニットプライス規定集の改訂等に中心的な役割を果たした。本成果は国土交通省からの通知により試行工事事務所において活用され、試行の拡大（舗装工事、道路改良工事、築堤護岸工事）に貢献したところである。

総合技術政策研究センター建設システム課長 尾関 信行



ユニットプライス型積算方式のしくみ